

笑顔の奥の心のサインが見えますか？



1 いじめとは

定義	「当該児童生徒が、一定の人間関係のあるものから、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。」とするいじめの定義と、個々の行為がいじめに当たるか否かの判断を、表面的・形式的に行うことなくいじめられた児童生徒の立場に立つて行うことが原則である。
構造	いじめの多くは、 いじめられている者 、 いじめている者 、 周りではやしたてる者 、 見て見ぬふりをしている者 という構造から成り立っている。このことは、いじめられる側にとっては、いじめを強化する存在として作用するし、いじめる側にとっては、いじめを是認してくれる存在として作用し、ますます勢いを増す可能性も秘めている。つまり、直接的な被害者・加害者のほかに集団全体への指導が重要である。
配慮すべきこと	異質なもの(身なり・言動の違い)に対する拒否反応の一つの形態がいじめである。また、発達障害の児童生徒に対する間違った偏見や思い込みがいじめにつながるものがないよう配慮しなければならない。そのため、一人ひとりの持つ特性を認め励まし、支えあう学級の雰囲気づくりも大切である。

2 いじめの特徴と発見のポイント

「教師が気づき、何らかの形でかかわれば、いじめはほとんど抑止できる」ということが検証されている。どの子にも「いじめ」の被害を受けたり、加担をしたりする可能性がある。「いじめ」の早期発見のためには、**子どもの心のサイン(つぶやき)**に気付くことが重要である。



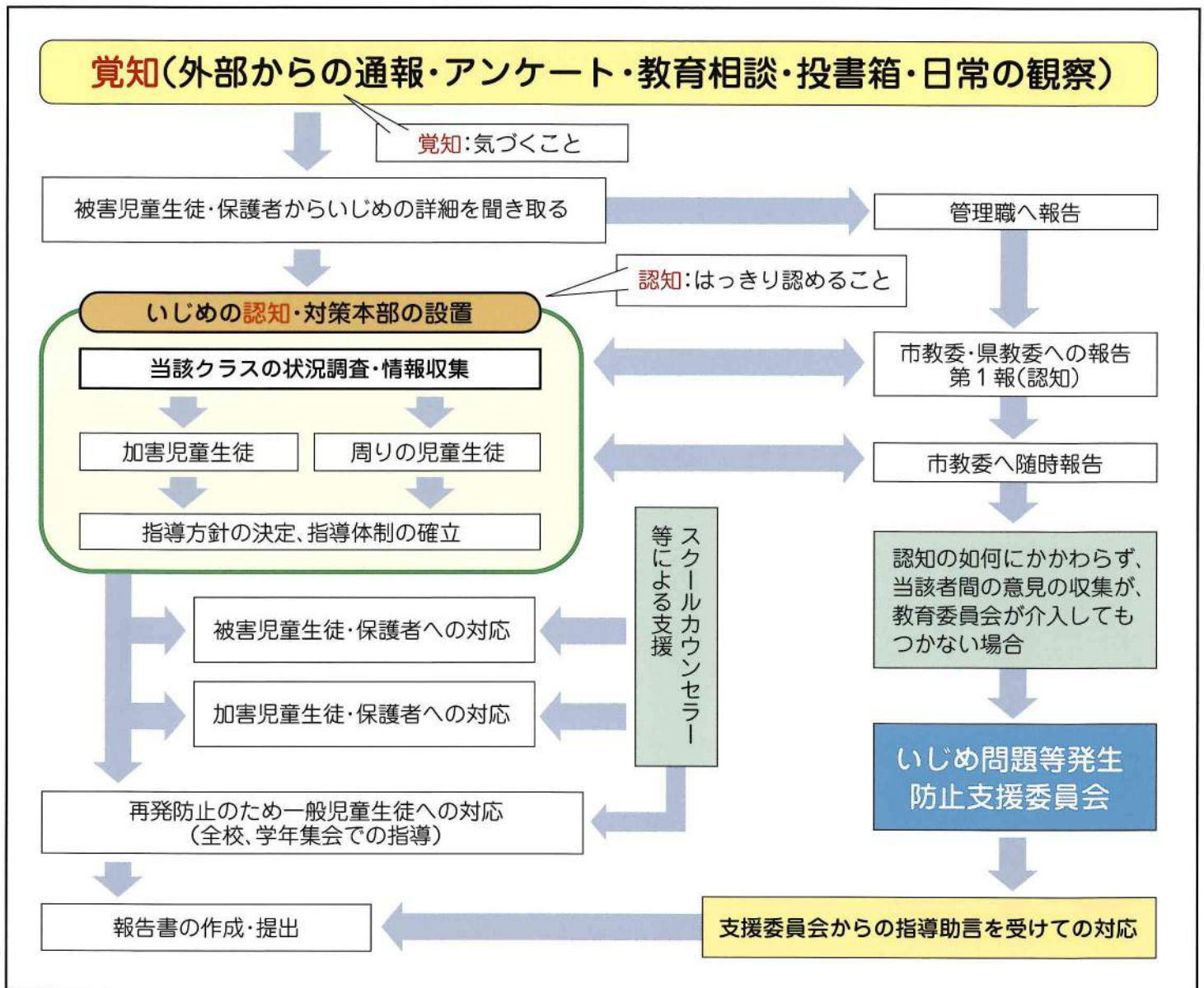
★日常的な観察の視点★

始業前	遅刻・欠席・早退が多くなる。	
	登校してから、身体の不調を訴えることが増える。	
授業中	学習意欲が低下したり、忘れ物が増えたりする。	
	保健室によく行くようになる。	
休み時間 昼休み	一人で過ごすことが多い。	
	職員室に用もなく、意図的に用事をつくって、よく来るようになる。	
	他の学級担任の先生や養護の先生へのかかわりを求めてくる。	
	遊びの中で、いつも同じ役をしている。	
給食時間	給食のとき不平等な配膳をされる。	
	特定の子が配膳をすると嫌がられる。	
	嫌がる仕事をよく任されている。	
掃除時間	みんなと離れて掃除をやらされていることがある。	
	みんなが嫌がる分担を行っている。	
放課後 部活動	急いで一人で帰宅する。	
	部活動の話題を避けたり、休みがちになったりする。	
その他	グループ分けなどで、なかなか所属が決まらない。	
	持ち物がなくなる。	
	配布物が渡らなかつたり、渡るのが遅かつたりする。	
	子どもたちの「違和感」を感じる。	

見えにくい構造をしたいじめに気付くためには、子どもとかかわる時間を確保することが重要である。たとえば、休み時間に子どもたちと遊んだり、伝言・放送ではなく直接行ったりするなど、**足で情報を稼ぐ**ことが考えられる。

また、教師の気づきをお互いに**共有**することで子どものサインに気づき、そのことが組織としての対応力の強化にもつながっていく。職員会議や生徒指導部会等において、小さな気づきを出し合い、情報交換をすることが大切である。

3 おかしいなと思ったときの緊急対応



4 保護者への対応

保護者からの訴えは電話で入ってくることが多い。だが、電話で済まそうとしない方がよい。希望を聞いて保護者に学校へ来ていただくなり、教師が家庭訪問をするなりして、じっくり訴えを聞くことが重要である。

保護者がどんな気持ちで校門をくぐったかを考え、最初の段階は、聞く姿勢を貫くことが大切である。そういった意味では、最初の印象は重要である。

対応のポイント

- ① 保護者の悩みをわが悩みとする。
- ② 初期の対応を大切にする。
- ③ 組織の一員として対応する。(複数での対応を基本とする)
- ④ 加害者には、攻撃的であった子どもの心を整理させるとともに、今後いじめをさせないためにどうするかを考えてもらう。
- ⑤ 学校の方針や実践を伝える。

いじめ問題が発生してから保護者との協力体制をつくることは非常に困難である。保護者が相談しやすい環境づくりが必要である。そのためには、学校・家庭・地域との連携強化を図り、開かれた学校づくりに努めることが重要である。

